

あすけ通信

足助とつながる情報誌

第20号

2017年3月発行



1月15日(日) 初釜の会にて太鼓披露

『思い出の風景 学校編』 ⑧明和小学校

平成28年度は、全校児童23名。5学級(1・2年生 単式学級 3・4年生 5・6年生が複式学級 特別支援学級)です。

本校は、豊田市で一番標高の高い学校です。学区には伊勢神トンネルや寧比曾岳を有し、毎年全校で寧比曾岳へ登山をしています。校歌にも歌われる寧比曾岳は標高1120mと豊田市最高峰です。また、地域講師の方に指導していただき、全校で太鼓に取り組んでいます。1月15日(日)に行われた地域行事である「初釜の会」で披露し、地域の活性化の一旦を担いながら、地域ぐるみの教育を進めています。

おいでん・さんそんセンターについて知ろう! 連載企画 第3弾



田舎への移住・定住総合窓口

今回は、「おいでん・さんそんセンター」(以下:センター)の、田舎への移住・定住支援の取組を紹介します。

空き家にあかりを!

皆さんは「空き家にあかりを!プロジェクト」をご存知ですか。これは、「田舎への移住・定住を促進するために、空き家を活用しよう」と、センターが進めている事業です。この事業についてセンター長の鈴木辰吉さんにお伺いしました。

「豊田市のある自治区の調査では、10年後、我が家が空き家になるかもしれないという人が23%。その中の75%の人が、空き家をそのままにしておくと考えています。そうすると10年後20年後には、空き家だらけの地域になってしまいます。今、空き家を活用して地域をつなぐのか、それとも・・・、の選択が問われています。現在、田舎への移住を希望している世帯が237世帯ありますが、空き家登録の物件は14件しかありません。持続可能な地域にしていくためには、空き家登録の件数を増やし、1,000人あたり2世帯の子育て世代を毎年入れていけばいいのです。そうすれば児童数も増えて少子高齢化にも歯止めがかかります。」

空き家の放置が“地域の諦めを生む”

この事業の一番の課題は、空き家の登録数が圧倒的に少ないことです。住み慣れた家を他人に貸すことに抵抗を感じる方は多く、簡単に登録数を増やすことはできません。だからこそ、家主さんに対する各地区での親身な働きかけと、住民皆さんの意識の変革が重要となっています。鈴木さんは、「放置された空き家は地域に諦めを生む。空き家を使うか放置するかが、地域の明暗を分ける。」とも話していました。センターでは、『家主さんのための空き家活用ガイドブック』を作り、足助支所と連携して積極的に相談にのっています。関心のある方はぜひご相談ください。



【空き家の片付けも市の助成が受けられます】

あすっご紹介

今回のあすっは、鱸 祐介さん (31歳)

2年前に大蔵地区にUターンされました。ご両親が住む実家の敷地にマイホームを建て、奥さん、娘さんと暮らしていらっしゃいます。名古屋の職場まで1時間半かけて通勤されているそうです。



Uターンのきっかけは？

豊田市内の野見山にアパートを借りて暮らしていましたが、子どもが生まれたときに、どこかに家が欲しいねと妻と話し合いました。妻は藤岡出身なので藤岡か足助かのどちらかでと考え、最終的に土地もあるし自分の慣れているところなので足助に戻ることにしました。

2年前に、実家の元々畑だったところに家を建てました。アパートだと子どもの泣き声や音が気になってしまいますし、都心の密集したところに家を建てる気にはならなかったですね。他にも若い世帯が戻ってきていますよ。

お仕事は何をされていますか？

名古屋にある年賀状印刷のフタバで働いています。毎年、年賀状シーズンになると「年賀状はフタバ」と言うCMをやっている会社です。年賀状シーズン中は生産の仕事をしています。普段はシステムエンジニアをしていて、社内生産システムのプログラムや、ウェブサイトを制作する仕事をしています。通勤は1時間半位かかりますが、もう慣

れたのでそんなに気にならないですね。

不便なことはありませんか？

戻ってきて何か不便だということは別に無いですね。歩いて行けるところにコンビニが無いのがちょっと不便かな。あと、銀行のATMが一箇所にとまってあると良いと思います。お役は草刈りとお祭り前の整備くらいなので、それほど多くはないです。

外に出ていらっしゃる方へメッセージを

子育ても今のところは全然苦労してないですし、学校も心配するほど大変だとは思ってないです。まちなかで車がたくさん通るから危なくて1人で歩かせられないというようなところで子どもを育てる気はなかったのですね、メリットの方が多いです。私は、三州足助太鼓をやっています。他にもサークル的な活動がいろいろあるし、そういうところで仲間もできると思います。出て行っている人も多いですが、戻ってきたら同級生もいる

し、こっちでまた友達付き合いもできるので、戻ってくるのも良いのではないかと思います。

インタビューのときに、奥さんと娘さん(4歳)も来ていただきました。奥さんにもお話を伺いました。

子育て環境はどうですか？

娘が1歳半になった頃に、『めだかの学校』(こども園入園前のわんぱく教室…あすけ通信第13号で紹介)に入って、その集まりが楽しかったですね。「同じくらいの歳の子たちがこんなにいるんだ!」とびっくりしました。足助って兄弟3人、4人が多くて、「少子化はどこへ?」みたいに思うくらいです。私は藤岡の中学校で9クラスまであったので、少人数で手厚く見てもらえるのはいいなと思っています。近所に子どもが少ないので、地域のおじちゃん、おばちゃんたちが娘のことを覚えて声をかけてくださいます。

(N・T)

『1年間あすけ通信編集委員として活動してみて…』

今年度の発行も今回で最後ということで、編集委員のみなさんからコメントをもらいました!

- ・編集という側にいる事で、相手を思った伝わる文章にしていくな、参加できたことは楽しかったです。(S・A)
- ・活動を通し、地元のことをさらに好きになりました。足助の魅力の発信に今後も努めていきたいと思えます。(Y・S)
- ・友達から「読んでよ!」と言われるのがとても嬉しいです。来年度も皆さんの声、待っています!!(Y・K)
- ・足助に残っていたりUターンしたりする若者達は、足助のよさを知り、愛着をもっていることに感心しました。(M・S)
- ・月1程度の会議に参加し、議論を楽しんでいます。若い力、知識が欲しいので、一般参加お待ちしております!(I・H)
- ・編集会議で、UターンやUターンの若い人が足助で頑張っていることを知り、私自身大いに励まされています。(N・K)
- ・本号で第20号!年4回発行してきたので5年間続きました、これからもずっと継続したいですね!!(N・T)

発行 行 電話 0565-62-0601
E-mail asuketushin@city.toyota.aichi.jp

